

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		7,797	t-CO ₂
① （温 室 除 く 酸 効 く 化 果 炭 ガ ス 換 算 排 出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		7,797

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 令和 9 年度		目標削減率
			目標排出量		
温室効果ガス 総 排 出 量		t-CO ₂		t-CO ₂	%

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 令和 9 年度		目標削減率
			目標排出量		
原単位当たりの 排 出 量	1.424	t- CO ₂ / h	1.381	t- CO ₂ / h	3.0 %

（2）目標設定の考え方

温室効果ガスを1年間に1%ずつ、3年間で3%削減する。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の行動の実践 【点検及び運転管理の見直し】	<ul style="list-style-type: none"> ・空調熱源（ターボ冷凍機）の定期的な保守整備により、高効率運転を行う。 ・中間期・冬季は外気冷房を活用し熱源稼働時間の短縮に努める。 	空調熱源の年間使用電力量を毎年1%づつ削減する。
省エネルギー・省資源の行動の実践 【運転の効率化】	<ul style="list-style-type: none"> ・空調フィルター清掃・内部フィン洗浄を計画的に実施し、高効率運転を行う。 ・高性能フィルターへ更新し、効率化を図る 	共用部・各店舗の空調フィルター清掃は年6回、内部フィン洗浄は2～3年周期で実施する
省エネルギー・省資源の行動の実践 【照明】	<ul style="list-style-type: none"> ・スポットライト・間接照明・装飾証明などについて不要な照明を消灯する。 ・照明スケジュール設定の見直しを行い点灯時間の削減に務める。 	
省エネルギー・省資源の行動の実践 【空調機器】	<ul style="list-style-type: none"> ・店内照明をLED器具に更新する。 ・テナント照明のLED化を進める 	
省エネルギー・省資源の行動の実践 【空調機器】	省エネタイプへ機器更新	

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

(環境教育) 入居テナントに対し「節電キャンペーン」を企画し、節電意識を向上させる。 (水資源の有効利用) 地下水膜ろ過設備を導入し、使用水量の半数を地下水でまかなう。 (廃棄物の排出抑制) 資源ごみ (紙類) の分別することにより可燃ごみの削減を図る。

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

<ul style="list-style-type: none">・ 荷物運搬時以外は後方エレベーターの使用を自粛する・ 屋上塔屋看板の消灯
--